

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



CONTENTS

■院長挨拶 ①	■通院治療室 ⑥	■京都中部総合医療センター 看護専門学校 ⑧
■赴任医師のご挨拶 ②	■京都中部総合医療センター 看護専門学校卒業式 ⑥	■病児保育室 ひまわり ⑨
■京都中部総合医療センターの 救急医療体制 ④	■interview/ 認知症看護特定認定看護師 ⑦	■第25回 看護研究発表会 ⑩
■京都中部総合医療センター がん薬物療法 ⑤		■職員のユニフォームが 新しくなります ⑩

地域医療支援病院 臨床研修指定病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院 (地域災害医療センター)
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096
<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2022.4

Vol.53

春号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域の医療、介護や福祉等との連携を推進し、最終拠点病院であるとの認識に立って地域支援に努めます。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さまの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報保護の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

院長挨拶

～コロナ禍が続く春に願う～

院長 ^{たつみ てつや} 辰巳 哲也



2019年12月以降、中国武漢市から広がった新型コロナウイルス感染症は全世界で感染が拡大し、日本でも第1例目の感染者の発生から約2年が経過しました。今もなおオミクロン株による第6波が続いていますが、今年もまた桜の花が満開に咲き誇る春が訪れました。新型コロナウイルスは変異を繰り返すことで、感染拡大を生じさせながら社会生活・社会経済とともに医療提供体制に深刻な打撃を与えてきました。各波の特徴により医

療体制に与えた影響は違いますが、第6波では、強い感染力により全国レベルで若年層から高齢者・小児まで感染者が急増し、医療従事者を含めた暮らしを支えるエッセンシャルワーカーが出勤できなくなり、社会機能の維持が困難となりました。また介護・福祉施設での大規模クラスターが生じ、健康弱者への医療支援に課題も残りました。次なるパンデミック（第7波）を想定した対策の構築やコロナ禍で経験した様々な課題を地域医療構想・第8次医療計画に活かす議論が今後展開されることを期待します。

いよいよ4月より2022年の新年度が始まりました。診療報酬は今回も実質マイナス改定であり、病院経営は益々困難な時代になっていくことが予想されます。またコロナ禍での医師の働き方改革も、待ったなしの状況に迫ってきました。病院経営とともに地域医療そのものが崩壊しないよう細心の注意を払いながら、病院の舵取りを行っていく必要を感じます。

4月からは61人もの新しい仲間を迎えました。医師部門では小児外科が増員となり、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科・口腔外科、放射線科は一部メンバーが変わります。また新たに糖尿病内科の常勤専門医に赴任していただくこととなり、さらに診療が一層充実することと期待しています。医師以外にも4月から勤務頂けるすべての職員の皆さまには心からの歓迎と今後の御活躍を期待しています。

京都中部総合医療センターは地域医療支援病院、第二種感染症指定病院としての責任と自覚を持ち、Withコロナ時代においても最適な医療を住民の皆さまに提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆さまの御協力と御支援を賜りますようどうか宜しくお願い致します。1日も早く新型コロナウイルスによる感染症が終息し、地域の皆さまが元通りの安心した日々の生活を取り戻されることを願ってやみません。今年も皆さまの春がさわやかで心暖かなものでありますようお願い申し上げます。

赴任医師のご挨拶

循環器内科

医師 ^{しょうじ けいすけ} 庄司 圭佑 (平成25年卒)

主に心不全に対する薬物治療や血管病変に対するカテーテル治療を専門としています。循環器疾患全般に対して包括的に診療できるよう心掛け、患者さんに寄り添った診療を行い、地域医療に貢献できるようさらに努力いたします。



腎臓内科

医員 ^{きむら ふゆき} 木村 芙雪 (平成31年卒)

京都第一赤十字病院、京都府立医科大学附属病院での初期研修を終了し、昨年度も京都府立医科大学付属病院で腎臓内科医として勤務しておりました。まだまだ未熟であり、ご迷惑をおかけすることも多いと存じますが、南丹医療圏の皆様のお役に立てる様、精一杯頑張っていきたいと思っています。何卒宜しくお願い致します。



医員 ^{はっとり しょうた} 服部 翔太 (平成31年卒)

京都山城総合医療センター、京都府立医科大学附属病院で勤め、この度当院腎臓内科に赴任します。患者さん目線のわかりやすい説明、丁寧な診療を心がけます。皆様の健康増進にお役に立てできるよう、精一杯精進して参ります。至らぬ点もあるかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



内分泌・糖尿病・代謝内科

医長 ^{ばんば りょう} 馬場 遼 (平成25年卒)

昨年度までは京都府立医科大学大学院で基礎実験を中心とした糖尿病の研究を行っておりました。この度当院での糖尿病内科の立ち上げをさせていただくことになり、南丹医療圏での糖尿病診療のレベルアップに少しでも貢献できるように精一杯精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。



外科

部長 ^{わたなべ けんじ} 渡邊 健次 (平成12年卒)

医師になり23年目、現在は胃癌の腹腔鏡手術を中心に、腹部の手術に携わっております。また抗がん剤治療や緩和治療に多数携わってまいりました。病気を治すお手伝いをさせていただくために、私は、患者さんやご家族の皆様との対話を何よりも大切にさせていただいております。病院受診は緊張すること多いかと思いますが、どんな些細なことでも気になることがございましたら、お気軽にお声掛けください。



医員 ^{すみよし しゅうたろう} 住吉 秀太郎 (平成29年卒)

自治医科大学を卒業後、京都府立医科大学附属北部医療センター、京都府立医科大学付属病院で勤務してまいりました。外科医として南丹医療圏の医療に少しでも役立てるよう精一杯努力する所存です。至らぬ点が多くご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、皆様どうぞ宜しくお願い致します。



医員 ^{おおわだ かほ} 大和田 佳歩 (令和2年卒)

京都第二赤十字病院、京都府立医科大学附属病院での初期研修を修了し、当院に赴任しました。外科としては1年目で、ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、少しでも地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



小児外科

医員 ^{いわい ひろき} 岩井 宏樹 (平成31年卒)

大阪府の豊中病院で初期研修を行い、昨年度まで京都府立医科大学病院に勤務してまいりました。本年度より小児だけでなく成人の外科も携わらせていただきます。体力とフットワークと愛想の良さを武器に、様々な知識・技術を吸収し、少しでも患者さんのお役に立てるよう精進して参ります。よろしくお願い申し上げます。



整形外科

医師 ^{なつ い じゅん べい} 夏井 純平 (平成30年卒)

これまで京都府立医科大学附属病院、京都鞍馬口医療センターで働いてまいりました。新しい土地で不安もありますが、病院を支える一員となれるよう努力いたしますので、宜しくお願いいたします。



放射線科

部長 ^{にしむら もと き} 西村 元喜 (平成17年卒)

前任地は京都府立医科大学附属病院であり、小児放射線診断学、核医学を中心として臨床・教育・研究に携わって参りました。地域医療の中核を担う病院の新たな一員として、皆様のお役に立てるよう日々精進して参りたいと考えております。宜しくお願い致します。



小児科

医師 ^{しまかわ うらら} 島川 麗 (平成28年卒)

京都府立医科大学附属病院で初期研修を行い、2019年度からは綾部市立病院に勤務しておりました。新型コロナウイルス感染症の影響でストレスfulな世の中ですが、子供達が少しでも健やかに日々を過ごせるように尽力したいと思います。また、私自身も2児の母ですので育児相談など気軽に話していただければと思います。宜しくお願い致します。



泌尿器科

医師 ^{あ じき じゅん} 安食 淳 (平成23年卒)

京都府立医科大学で大学院生として小児泌尿器科領域の臨床研究および臨床業務を行ってまいりました。お子様から大人まで幅広く、そして誠意を尽くして診療に携わりたいと思います。一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



医師 ^{の ぎ もり ともかず} 野木森 智和 (平成31年卒)

大阪医科大学卒業後、2年間綾部市立病院での初期研修を経て、今年度医師3年目になります。小児科医として、患者さん、ご両親とたくさんコミュニケーションをとり、医療スタッフと連携を取ることで、個々の患者さんに合った最適な医療を提供していきたいと考えています。地域の皆様に安心、信頼していただけるよう、精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。



医師 ^{いのうえ かい} 井上 魁 (平成30年卒)

京都第二赤十字病院、京都府立医科大学附属病院を経て、昨年度までは京都山城総合医療センターにて勤務しておりました。丁寧な診療を心がけ、地域の中核病院の一員として南丹医療圏の皆様に貢献できるよう、精一杯頑張ります。不慣れなことも多く、至らぬ点もあるかとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



産婦人科

医師 ^{いわ い み ほ} 岩井 未帆 (平成31年卒)

滋賀県の近江八幡市立総合医療センターで初期研修修了後、産婦人科前期専攻医として京都府立医科大学附属病院で1年間勤務しました。京都中部総合医療センターの一員として地域の皆様にお役に立てるよう精一杯努力して参りたいと思います。まだまだ未熟で至らぬ点も多々あると存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



耳鼻咽喉科

医師 ^{こ だま のり こ} 児玉 典子 (平成31年卒)

京都第一赤十字病院・京都府立医科大学附属病院で初期研修後、昨年度は大学病院で勤務しておりました。1人でも多くの患者様のお役に立つ事ができるように日々精進して努力していく所存です。まだまだ未熟であり、ご迷惑をおかけする事が多々あるかと存じますが何卒よろしくお願い致します。



眼 科

医員 ^{たかはら あや か} 高原 彩加 (平成27年卒)

京都府立医科大学を卒業後、京都府立医科大学附属病院、舞鶴赤十字病院、京丹後市立久美浜病院で勤務しておりました。微力ではありますが、地域の皆様が安心して過ごせるように責任を持ってしっかり眼科診療を行っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



医員 ^{おかだ よう} 岡田 陽 (平成30年卒)

出身は岐阜県で、入局にあたり京都へ来させていただきました。昨年は舞鶴赤十字病院・京都医療センターにて勤務しておりました。南丹市ならびその周辺の方々のために、明るく優しく丁寧に診療にあたらせていただく所存ですので何卒よろしくお願いいたします。眼についてお困りのことあればお気軽にお声がけください。



歯科・口腔外科

医員 ^{なかい けい} 中井 敬 (平成27年卒)

社会人経験を経てから歯科医師となり、京都府立医科大学附属病院で大学院生として基礎研究を行っておりました。出身は亀岡ですので、地元である南丹地域の皆様の歯科診療に少しでも貢献できますよう日々努力し、研鑽を積んでいく所存です。若輩者ですが、末永くご支援、ご指導をお願い申し上げます。



京都中部総合医療センターの救急医療体制

当院では、24時間365日救急の患者さんを受け入れられるよう体制を整備しております。京都府からは「救急告示病院」に指定され、二次救急医療機関として救急隊からの要請にも日々対応しております。

南丹医療圏には三次救急に指定されている病院がありませんが、当院では集中治療室を整備しており、第二病棟屋上のヘリポートではドクターヘリの受け入れも行っております。冠動脈カテーテル治療や、急性腹症に対する緊急消化管内視鏡処置・緊急開腹手術などには24時間対応できる高次救急機能を有し、二・五次救急とも言うべき役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）が猛威を振るう昨今、救急外来においても感染対策を徹底して診療にあたっています。一般外来ではコロナのような症状がある患者さんには、場合によっては、PCR検査や抗原検査を先に行い、結果が出るまでお待ちいただいてから診察を行うことがあります。しかし救急でそのような時間的余裕のない患者さんには、発熱などの症状がある場合、コロナが否定できない限りはガウンや手袋などの個人防護具（PPE：Personal Protective Equipment）をはじめとした感染対策が欠かせません。感染症患者に対する診療スキルはもちろん、PPEもただ身につければ良いというわけではなく、装着や取り外しには一定の手順があり習熟が必要です。発熱などはコロナ特有ではなく、むしろ様々な疾患で現れる症状であるため、研修等を通して医療従事者のスキルアップを行いながら、日々緊張感を持って対応しています。

救急外来のお問い合わせ先
0771-42-2510(代)
24時間 365日対応



京都中部総合医療センター がん薬物療法

がん薬物療法とは

薬剤部 薬剤師主任 いちじま ともき 一島 知樹

患者さんの生活を考慮しながら、安全・安心な抗がん剤治療を目指しています。



2021年3月現在 化学療法運営委員会のメンバー

がん薬物療法には、細胞障害性抗がん剤・分子標的薬・ホルモン薬・免疫チェックポイント阻害薬の4つがあり、単剤で使用したり併用で行います。そのため、医師だけでなく薬剤師・看護師などの職種と連携を取りながら、安全に実施できるよう努めています。

外来化学療法とは

長時間投与の薬物治療等の一部の治療以外、外来通院で受けられるようになっており、それまでの生活をできるかぎり続けながら、治療が受けられるメリットがあります。医師だけでなく、専門知識・技術を有した薬剤師・看護師などのスタッフでサポートしていきます。

薬剤部の取り組み

薬剤部では、処方された抗がん剤について治療歴・投与量・検査値等確認しながら、調剤・調製を行っています。当院では2021年2月から、静脈内投与を行う抗がん剤に対し、調製者・投与者・患者さんを抗がん剤の暴露リスクを下げるため、全て閉鎖式器具を用いて調製・投与を行っています。また、新たに抗がん剤治療を始める場合や薬の変更があった場合、スケジュールや起こりうる副作用等について説明を行い、患者さんが安心して抗がん剤治療を受けていただけるようサポートしています。



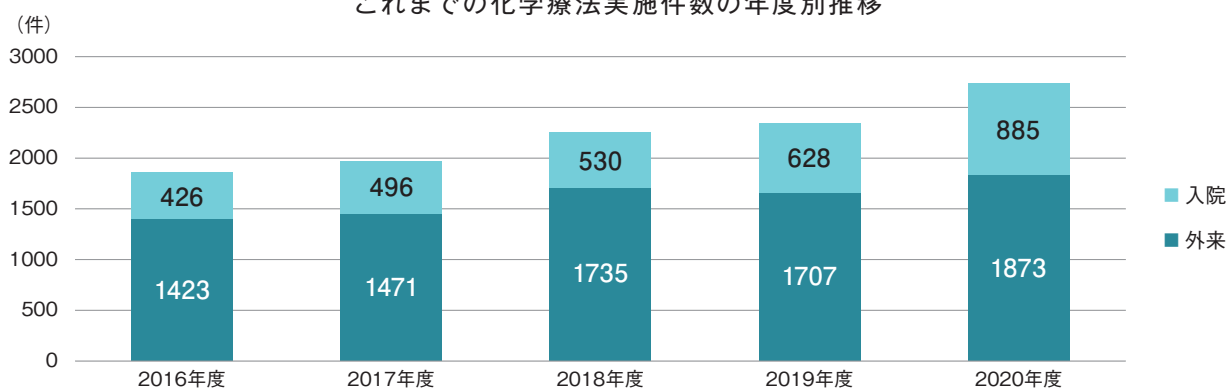
通院治療室

薬剤部 薬剤師主任 いちじま ともき 一島 知樹

当院での外来化学療法は、本館2階の通院治療室で行っています。2021年は、2325人の治療を通院治療室で行いました。年々、がん薬物療法を行う患者さんは増加しており、通院治療室を利用する患者さんも増加しています。それに伴い、通院治療室のベット数は2021年11月まで8床でしたが、2021年12月より12床へと増床となり、ベットが空くまで待合のソファでお待ちいただいていた時間が少なくなり、スムーズに治療を行えるようになりました。



これまでの化学療法実施件数の年度別推移



京都中部総合医療センター 看護専門学校卒業式

教務主任 あさだ みか 浅田 美佳

3月2日、2021年度卒業証書授与式が行われました。4月より現場に出て働く3年生への新型コロナウイルス感染予防を考慮して、この度、初となるオンライン形式の卒業式を挙行了しました。

このICT（情報通信技術）を活用した式典は無事に終わり、その方法を見学したいと他の看護学校から要望があるほどでした。また、オンラインにすることで、昨年度は卒業生、来賓、教員での実施でしたが、今回



回は来賓やご家族、全在校生も参加することができ送辞を述べ、卒業を共に祝うことができました。

このようなオンライン形式での式典挙行にご協力とご理解をいただいた保護者および関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

認知症看護特定認定看護師

看護師長 眞継 美貴

● これまでの経歴を教えてください

私は当病院の附属高等看護学校を卒業し1993年4月に入職しました。入職後は内科病棟や外来勤務に従事し、内視鏡業務に従事している際に内視鏡技師免許を取得しました。その後病棟で副看護師長として5年間働き、2014年から看護師長となり、現在で看護師歴は29年目となりました。

認知症看護については、2016年に京都府が実施した研修を終了し認知症サポートナースとなり、さらに学びを深めたいと思い福井大学大学院医学系研究科看護キャリアアップセンターの認知症看護認定看護師教育課程（B過程）に進み、2021年12月認定試験に合格。認知症看護認定看護師と同時に特定看護師となりました。



● 資格取得を目指したきっかけは何ですか

入院されている患者さんは高齢の方が増えてきています。入院によって認知症をもつ高齢者の多くは自宅とは違う環境や、慣れない治療に混乱されることがしばしばあります。どのように関わったらいいのか、安心して入院生活を送っていただけるためにはどうしたらいいのか日々悩んでいました。そのような時に認知症サポートナース養成研修に参加したことで新たな知識の習得ができ、施設実習を通し、病院とは違い施設や自宅で生活されている認知症の方やご家族との出会いがあり、超高齢化社会の今こそ認知症看護は特に必要であると実感し、認定看護師を目指しました。

● 勉強中に大変だったことや印象に残っていることは

一番印象に残っていることは、やはりコロナ禍であったために授業が最初WEBとなり、一人で知らない土地で研修仲間ともなかなかあえず不安だったことです。借りたマンションの中で、課題をもくもくとこなしていく孤独感は半端ないものがありました。課題もこれであってるのかな？など聞く人もいなくて…（笑）でも忙しい中、長期間の研修に送りだし、見守っていただいている看護部長をはじめ皆さんが待っていてくださっていると思うと頑張れました。

授業は毎日新しい学びが多く、楽しかったです。特に書籍等も出しておられる、国立がん研究センターの小川朝生先生や認知症介護研究・研修東京センター研究部の永田久美子先生からの講義を受けることができたことが特に印象に残っています。

● これからの活動について教えてください

今はまだ正直活動を軌道に乗せるためにどうしたらいいのか模索中という感じです。認知症ケアは看護師のみではなく、医師やMSW、薬剤師など多職種によるチーム医療が必要です。今後はチームを作りスタッフと一緒に関わり方を考えたり、退院調整、意思決定支援などにも関わり、安心して医療を受けていただけるようにできるといいなと思っています。

外来部門では認知症疾患医療センターにも携わっていますので、自宅で過ごされている認知症をもつご本人、ご家族の相談をおこなっています。

まだまだ駆け出しですが、皆さんと共に成長していきたいと思っておりますので今後ともご指導よろしくお願いいたします。



「卒業を迎えて」

しづ や きょう か
澁谷 京香

看護の世界に期待を膨らませ入学してから3年が経ちました。学生生活の大半は、新型コロナウイルス感染症の流行によりオンライン授業や学内実習となり、予想外のことに戸惑うこともありました。だからこそ仲間と共に学習できることや、臨地実習に行けることは当たり前ではないと気づくことができました。卒業後もこの思いを忘れずに、一日一日をそして人との出会いを大切にできるような看護師を目指していききたいと思います。

なかにし ゆう た
中西 悠太

入学当初に「どんな看護師になりたいのか」についての発表があり、理想の看護師像を意識して過ごしていました。実習の中で看護とは何かに悩むことも多々ありましたが、医療従事者や患者さん、そのご家族との関わりを通して、自身の看護観および技術などを磨いていくことができました。未熟ではありますが、看護師になっても、実習で学んだことを、今後の看護に活かしていけるようにしていきたいと考えています。



「先輩たちの思いを引き継いで」 あらさわ のぶひこ 荒澤 暢彦

新型コロナウイルス感染症の影響により、先輩方との関わりは限られた中でしたが、地域で暮らす人々や患者さんに寄り添い、果敢に挑戦し続ける先輩の背中を見て、多くのことを学ばせていただくことができました。

卒業記念に寄贈いただいた初雪カヅラの花言葉「素敵になって」に込められた想いを胸に勉学に励むことは勿論のこと、人との繋がりを大切にしながら、地域の皆様にも愛される看護師になることを目指していききたいと思います。

卒業生から寄贈された花を、校庭の一角に植えている1年生たち。

病児保育室 ひまわり



亀岡市・南丹市及び京丹波町から委託を受け、お子さんが病気やケガなどのために保育所（園）や幼稚園での集団生活が困難であり、保護者が仕事など家庭で保育出来ない場合に一時的にお預かりします。

保育士主任 ^{かわかつ まゆ} 川勝 真由

お子さんが病気で保育所などへ通えない時に一時的にお預かりする病児保育室ひまわりが2021年11月1日に開設されました。保育士と担当看護師が、優しく、あたたかくケア、サポートさせていただいています。

共働き世帯の増加により、病児保育のニーズは年々高まっていると感じます。休みを取りづらい保護者にとって子供の急な体調不良は不安で慌てることがあります。普段通り慣れた保育所などとは違う場所、そしていつもの先生じゃない！ということもあり、入室時は不安そうなお子さんもありますが、すぐに慣れて帰り際は「また来てもいい？」と聞いてくれるお子さんもいます。元気な時は利用されない病児保育室なので「また来てね！」と返事するのは複雑ですが、このような子ども達の

笑顔が見られると、1日を安心して過ごせたように感じ、嬉しく思います。病児保育室が、仕事を休めない時の強い味方になれるよう取り組んで参ります。

小児科部長 ^{きはら あきお} 木原 明生

病児保育を利用されるときには、ご家族の方はお子様の体調について大変に心配されていることと思います。小児科外来ではお子様を病児保育でお預かりする前に診察を行い、お子様の症状や全身状態を確認し、安全に保育を受けていただくためのお手伝いをさせていただきます。

たとえば、見た目より重い病状であったりしないか、感染性の疾患で隔離の必要がないかなどを判断して、保育士や看護師と情報を共有しています。症状によっては病児保育が不可と判断することもあります。また、

保育前に新型コロナウイルスの検査を受けていただくこともありますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

利用方法について

病児保育の定員は6名となっております。利用時間や利用料金について、詳しくは病院ホームページに掲載していますので、ご確認ください。

また利用開始にあたっては事前登録が必要となります。



病院ホームページ

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp/shinryou/bumon/byojihoiku/>

第25回 看護研究発表会



看護部 看護研究委員会 まえばやし けい こ 前林 佳子

毎年恒例の看護研究ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大により2020年度は中止となりました。2021年度は、今年こそと6部署の看護研究メンバーが奮闘しました。迎えた第25回看護研究発表会はオンライン形式に変更し、成果の報告に至りました。院内外の方より、参加しての意見や感想をいただきました。

皆様の投票の結果、優秀賞は手術室「A病院における看護職者のラテックスアレルギーに関する認知度調査」、特別賞は第一病棟5階「プロトコール使用による早期経腸栄養導入後の意識変化」となりました。

提供した看護を評価し、根拠を見出し、これから提供する看護をよりよいものに変えるため、看護部は今後も看護の探求を継続していきます。

＼ 職員のユニフォームが新しくなります /

令和4年3月1日より職員のユニフォームが新しくなりました。スタッフ一同、気持ちを新たに診療にあたりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



看護師



看護師



看護助手



診療放射線技師



地域医療連携室スタッフ



臨床検査技師



臨床工学技士

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは…

普段の健康状態を把握してしてくれる
もっとも身近な「主治医」のことです。
具合が悪くなったり、困ったときにはいちばん
に受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



かかりつけ医についてのご相談は

総合受付①窓口

- 地域医療連携室／電話0771-42-5061(直通)
- 受付時間／平日8:30～17:15

看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

◆看護師寮利用できます。(正職員)

月額4,000円(税込)

*水道費込み

*冷暖房・キッチン・バス・トイレ完備

〒629-0197

京都府南丹市八木町八木上野25番地

京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで



詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-chubumedic.or.jp/nurse/>



編集後記

桜の季節をむかえ、暖くなる毎日に向きな気持ちになります。当院も多くの新しい職員をむかえ、さらにユニフォームも新しくなりました。すこしでも早く地域の皆様に覚えていただければと思います。

社会情勢は目まぐるしくかわるなかで、明るい話題を提供していけるよう、今年度も病院情報を発信してまいります。よろしくお願いいたします。
広報委員会 M.N.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。

